

緩和ケア認定看護師の取り組み

市立札幌病院 緩和ケア認定看護師
松山 茂子

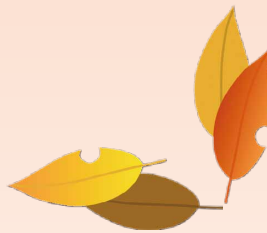
私は、2004年10月より緩和ケアチーム専従看護師として活動を始め、今年で10年が経過しました。年間約200名の新規患者の依頼があり、痛みなどの症状コントロールを始め、多職種と連携を図りながら、さまざまな場面での意思決定に関する支援や、家族の支援を病棟看護師と共に実践しています。また、当院は急性期病院であるため、治療と並行して緩和ケアを必要とする患者が多いことから、退院後のサポートが不可欠と考え、2004年当初から緩和ケア外来を開設しています。外来では患者や家族が自宅で安心して療養できるように、痛みやその他の苦痛症状、不安な気持ちに対して、電話で相談できる体制をとっています。さらに、外来でオピオイド鎮痛薬が開始された場合には、翌日に効果や副作用症状の確認のために電話訪問を行い、症状マネジメントに努めています。

2012年4月より、一般病棟に緩和ケア内科病床2床が稼働しています。1年目は病棟スタッフを対象に、2年目は院内のスタッフも対象に定期的な学習会を実施し、その人らしい最期を迎えられるよう日々の生活を大切にする看取りまでの看護をスタッフと共に実践しています。また、年間20名程の患者を看取っていることから、ケアの振り返りと関わる医療者のグリーフケアが必要であると考え、デスクカンファレンスの定着に取り組みました。現在ではリハビリテーション科など関わったスタッフを交え多職種で行うまでに定着しております。そして、今年度は遺族のケアに取り組み始めました。具体的には、退院後3～5か月を目処に電話訪問を行い、体調や気持ちなどその後の様子を伺いながら、複雑性悲嘆に陥る危険性についてアセスメントし、必要時には精神科医師へコンサルトできるように連携体制を整え取り組んでいるところです。

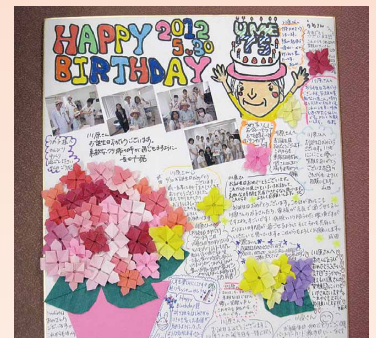
がんの診断時から最期まで、患者と家族に対し、お一人おひとりの人生の物語を大切に、心を通わず質の高い緩和ケアが提供できるように日々奮闘しています。



【患者さんの折り紙作品】



【ボランティアさんとスタッフ
の合作のバースデーカード】



がんリハビリテーション

市立札幌病院 リハビリテーション科 作業療法士
石井 陽史

近年、わが国では高齢化とともにがん罹患する人が増加傾向にあり、2015年には推計で89万人もの人ががん罹患すると予想されていますが、がん医療の進歩により、がんの早期診断・治療が可能となり、5年生存率は着実に改善を示しています。しかし一方で、がんの治療手段である手術や化学療法、放射線治療に伴う後遺症や副作用によって、多くの患者さんの生活の質(以下QOL)は大きな影響を受け、家庭や仕事などへの社会復帰の妨げになることも少なくありません。

このような時代を迎え、患者さんとその家族が、その時々を経験するさまざまな症状・後遺症と向き合いながらQOLの高い生活を送るため、がん治療の一環として、診断された直後から今後予想される障害を予防することや、がん治療により避け難い身体機能の低下を改善することを目的とした「がんリハビリテーション(以下がんリハビリ)」もまた近年注目される分野の一つとなりました。

がんリハビリは、手術の後に寝たきりにならないように早い時期から体を起こしたり、痛みが伴わない動作の練習を行います。化学療法や放射線治療中・治療後には、適度な運動を行うことで体力低下を未然に予防し、速やかに自宅退院が可能となるように支援します。

また、積極的ながん治療が出来ない時期においても、自分らしい生活が維持できるように自立した生活動作を増やし、患者さんご家族が希望する生活を過ごせるように支援します。



■私たちが担当です

当院には、がん治療に必要な知識・技能を習得するための研修を修了した医師・看護師・リハビリスタッフが在籍しています。平成26年4月に「がん患者リハビリテーション料」の施設基準を取得し、現在は「消化器内科(6階東病棟)」「呼吸器内科(5階東病棟)」に入院されている患者さんに対して、それぞれの専門職種の立場からがんリハビリを実践しています。「地域がん診療連携拠点病院」として質の高いがんリハビリを提供するために、今後は全診療科においてもがんリハビリを受けられるように準備を進めていきます。



【カンファレンスの様子】

市立札幌病院外来化学療法センターにおける、 がん化学療法看護認定看護師の取り組み

市立札幌病院 がん化学療法看護認定看護師
高口 弘美

当院外来化学療法センターでは、消化器系・呼吸器系・血液・婦人科系・泌尿器系などの癌腫における抗がん薬治療とリウマチやクローン病などへの生物製剤による治療を行っています。最近のがん化学療法の進歩は目覚ましく、新薬による治療成績の向上、特に生存期間の延長などが注目されています。その一方で治療に伴う身体的苦痛や気持ちの辛さなどの精神面、そして仕事に通いながら治療ができるなど社会面へのサポートなどを受け、生活の質(以下QOL)を維持しながら治療をするために支援が必要となっています。

そのような中で、安全で患者さん・ご家族が安心して外来通院での治療を続けられ、QOLを落とさずに治療が継続できるように、患者さんへの副作用へのセルフケア支援やスタッフ指導、緩和ケアチームなど他職種との連携を図りチーム医療の提供について取り組んでいます。その中でも、患者さんへの電話サポートや各診療科とのカンファレンス、研修会についてご紹介します。

●外来化学療法電話サポート

初めて外来化学療法を受けた患者さんの自宅に電話し、居宅での副作用の重症化予防と経口抗がん剤の服薬支援、不安の軽減を図っています。

●カンファレンス

情報共有と適切な看護介入のために各診療科の主治医、皮膚科医、退院調整担当係、緩和ケアチーム、診察室看護師等とカンファレンスを実施しています。

●外来化学療法センター研修会

がん化学療法における最新の正しい知識の習得と他職種間での情報共有のために今年度より看護師、薬剤師、医師と協働しがん化学療法についての研修会を実施しています。地域の関連施設の皆様も是非、ご参加ください。

市立札幌病院で化学療法を受けてよかった、と言っていただけるよう、今後も患者さん・ご家族へきめ細やかな支援を行ってまいります。



【外来化学療法センターの外観】

がん性疼痛看護認定看護師の取り組み

市立札幌病院 がん性疼痛看護認定看護師
小松 智子

2010年にがん性疼痛看護認定看護師免許を取得し、放射線治療科外来に所属しながら活動を行っています。また、週1回緩和ケアチームのラウンドに同行し、入院中のがん疼痛の患者さんにも介入しています。

放射線治療科外来には、根治治療から再発予防、症状緩和に至るまで、がんの早期から終末期のあらゆる時期の患者さんが、年間500名前後受診されます。治療方針の説明時には、可能な限り同席させていただき、患者さん・ご家族の理解度の確認や専門的知識の提供、疾病や治療に対する精神的支援を行い、納得・安心して治療が受けられるよう取り組んでいます。外来で得た患者情報は、医師や外来・病棟看護師、放射線治療部門スタッフなど他職種に伝達し、チーム医療が円滑に進むよう調整を行っています。

患者さんの中には、骨転移による痛みなどの除痛目的で放射線治療を受ける方もいます。病態や根拠に基づいた疼痛マネジメントと、医師と連携しながら薬剤の調整を行い、がんの痛みを抱えた患者さんが心身共に安楽な状態で予定の治療が受けられるよう介入しています。

外来で医療用麻薬が導入された場合は、服薬指導を行いながら、患者さんやご家族が希望する生活を維持出来るよう支援しています。

市立札幌病院は、地域完結型医療の推進を目指しており、がん領域の認定看護師として、特に地域との窓口となる外来部門のがん疼痛看護の質の向上と、自施設だけではなく地域全体のがん疼痛看護の質の向上にも貢献したいと考えています。今年度は、地域の看護職員対象に、がん患者の痛みに関する公開セミナーを行いました。地域の皆様において、がん疼痛における看護や薬物療法についての問い合わせ、学習会の依頼などありましたらいつでもご相談下さい。



【カウンセリングの様子】

【がん患者の痛みに関する公開セミナーの風景】



がん相談員の取り組み

市立札幌病院 がん相談支援センター がん相談専従看護師
林 美津子

がん相談支援センター 活動の取り組み

当院は平成17年に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん相談窓口を設置しました。今年度より名称が全国共通となり「がん相談支援センター」と変更し活動しています。がん相談はがん専門相談員の研修を受けた看護師2名が、がんに関する悩み、疑問、不安について一緒に考え、問題を解決するお手伝いをしています。診断や治療の判断をすることはできませんが、がんに関する治療や医療機関の情報提供、セカンドオピニオンの調整、療養について、精神的なサポート、就労支援などにも対応しています。

相談者は5割が院内患者さん及びご家族、5割は院外の方で、相談件数も徐々に増え年間500件以上の相談を受けています。しかし、がん相談支援センターの認知度は全国的にも低い事が課題となっており、院内・院外への広報活動を拡大しています。これからも地域の皆様、がん患者さん・ご家族の方々が安心して治療・療養できるように、お気軽に当窓口をご利用していただきたいと思います。



がん相談支援センター
月～金9:00～12:00、13:00～17:00
連絡先: 直通電話011-726-8101
場所: 1階医事課窓口30番
相談内容は厳守され、相談は無料です。

【がん相談支援センター ロゴ】

がんサロン かたろーね

平成24年よりがん患者さん・ご家族の方へのサポートを目的としたがんサロン「やさしさサロン かたろーね」を開設し、現在2か月に1回サロンを開催しています。ミニレクチャーも交えながら、がんの経験をされた方同士が気軽に語り合える場となるようお手伝いしています。毎回参加者は少人数(3～10名)ではありますが、経験者でなければ語り合えない悩みや不安、生活面の工夫などを共有する場となっており、参加者の方からは「来てよかった」という感想をいただいています。今後も皆様に参加していただけるよう、利用しやすく温かい雰囲気のがんサロンを目指していきます。

やさしさサロン かたろーね

日程: 奇数月の第3木曜日
時間: 13:30～15:00
場所: 2階第4会議室AB

事前申込、参加費用は不要です。
当院の患者さんに限らず、どなたでも参加できます。

【やさしさサロン かたろーね ロゴ】



■窓口にはサロンの案内用紙やアンケートBOXを設置しています

